midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

February 2012 No.323

２月号の１枚：森の神様に新年の挨拶

［巻頭言］ 戦後林政、わが国の荒廃森林

なぜこんなに森林荒廃が進んだか、理由が知りたくて「戦後林政史」を読んでいる

戦争遂行と敗戦後は、国土復興の為、過剰伐採が急増しはげ山だらけになってしまった。そこで政府は「拡大造林：1000万ha」を目標とした。昭和39年には木材の需要増加と価格上昇を見込んで「林業基本法」を制定したが、薪・炭に替わる石油・石炭燃料革命と「耐火建築促進法（昭和27年）」に続く各種・不燃化推進法の為に、鉄筋コンクリート造り高層住宅技術が発達し国産材需要は急減した。昭和35年の外材輸入自由化がそれに輪をかけた。

森林計画制度では、拡大造林策として森林組合に補助金を投入したが、事業結果の検証をしない制度であり軌道修正の無いまま今に続いている。また、林業基本法は，川上（生産）に重点が置かれ、川中（加工・流通）、川下（消費・市場）を繋ぐ木材流通の合理性に欠けており、通産省や国交省等との横の連携に欠けている。縦割行政システムの弊害か。昨年、林政は、公共建築物への国産材奨励策を打ち出したが、製材・加工・流通システムが上手く機能していないため遅々として進んでいない。

何故か。自然相手の政策（農林水産業：一次産業）は50年～100年、それ以上の視点で取り組むべき課題だが、わが国の一次産業政策は、目先の変化に追われて行くべき目標・一般方向を見ていない。現在、補助金間伐による林内残材が2000万m^3ある。腐ればガスが出て温暖化にも影響する。森林率68％・世界第２位、GDP第３位の経済先進国のわが国にして、一次産業が機能不全に陥っている。

本年から、相模原市と地域の森林組合が行動を共にしようと言って下さっているが、百万の味方を得た思いである。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.02

2月 5日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

2月19日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]若柳嵐山の森

1月15日（第三日曜日）

「若者と熟年のコラボ、生命の森」

2012年、最初の活動日、冷たい冬のはりつめた空気も若者たちや、緑のダム体験学校の人々、大学・高校のOB組他との参加で華やぐ。参加者は高井戸中11名、学生連合フォレストノバ＋OB・14名。緑のダム体験学校参加「森の駅協議会（川上と川中（製材・加工・流通）、川下（消費者）を繋ぐ場）」10名、生命の森宣言２名、一般16名。計53名。

朝礼では山主の鈴木史比古氏より「怪我の無いように・・」とのご注意。

新春恒例の全員参加による「森の神様」への安全祈願と昨年の活動報告。[1]東日本大震災被災地・大船渡市１５施設への義援金＋「緑のダム・森の積み木」の寄付、[2]相模原市と津久井郡森林組合との森林整備決定報告、[3]日本の森林の守る地方銀行の会との交流開始などを報告。

先ずは、基地回りの清掃では、まるで伊勢神宮境内清掃？!の様にきれいに掃き清める。集めた木の葉は「カブト虫牧場」用に有効活用。緑のダム体験学校参加の「森の駅協議会」では桜井先生のご案内で森の観察会を実施、神奈川景観50選にある嵐山頂上を極め午後は、間伐体験。

高井戸中は望星の森の急斜面でも、賑やか！。冬の静かな森の中に、若人の明るい声がエコーしていた！。

１６時より新年会は、相模湖交流センター内の“喫茶：青林檎”にて。森仲間の森への熱い想いのスピーチ。また、若き社会人滝沢さん（水産会社勤務）と二藤さん（森林会社勤務）のOB組には桜井先生から森と人生についてアドバイスは、いろんな深い意味を込めて「現実を見よ！」と。また、「森の駅」推進協議会の方々とも貴重なご意見の聞く事が出来て、良い交流会となった。

司会初チャレンジの瀬戸学生（２年）、吉崎学生（１年）他、今年卒業する斉藤俊一学生の涙ウルルのコメントも良かった？！。全国50大学参加のエココンテストでは、フォレストノバは準優勝＋会場賞ゲットを報告。その状況パーフォーマンスもあり、良い年明けとなった。

伊藤小夜子（本会、会員）

左：昼食風景

右上：枝打ちに向かう中学生
右中：体験学校の間伐体験
右下：新年の交流会にて

※小原本陣の森の定例活動は森のしきたりにある、新年10日まで森の作業は行わない、にしたがいお休みしています。

[報告１]
湘南の森活動報告

12月24日

９日の定例作業が雨で中止となったので、今月も一か月ぶりの作業となりました。

まず、懸案のヤブラン平の枯れかかったミズキの大木２本の伐採にかかりました。 伐採してみると、キクイムシの類に食い荒らされた内部は中空となっており、 一部には喰いかすがぎっしりと詰まっていたり、一部は地上１Ｍくらいまで黒い土 とミミズが詰まっていたり、ほぼ完璧に枯死状態であることが確認されました。 早目に伐採したことで、倒木や落枝の危険が避けられたものと思われます。 次にセンターヤードに移動して、前にマーキングしておいたサクラの枯れ木を ５本ほど伐採しました。この地域全体にサクラの老衰が目立っており、 この冬はこれらの木々の伐採と若木の植林を実施してゆきたいと思います。

今回の伐採は通行人（ハイカー）への危険を避けるために、見張りを立てたり、 ロープをかけて安全な方向に伐採方向を持ってゆくように安全に配慮、 全メンバーで力を合わせてロープを引き、伐採された木も小切りにして、 目立たないところに積みました。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
フォレストキッズスクール

1月22日

JFIK：全国森林インストラクター会神奈川会、2012フォレストキッズ・スクール「木こりになろう」が開かれた。

雨予告80%に心配した、、、にも関わらず、お父さん・お母さん・子供たちが25人ばかりも集まった。相模湖駅に降りたら雨の気配はなかった。「何時も、そうなるんだよなぁ～」と JFIK お世話役河口さん。JFIK が「若柳嵐山の森」を使って「親子・森林体験：きこりになろう」を開催した。

森での注意事項と準備体操後、ノバ学生が、あらかじめ紙にナンバーを付けた木にＡ・Ｂ，１０人・２班に分かれて “この木、何の木，気になるゥ～木！？”図鑑を持って親子で木の名当てコンテスト。森の中への案内人は、 JFIK のベテランの人たち。

森の中で、、、紙ナンバーの木の名を図鑑首っ引きで探すお父さん・お母さんと子どもたちの真剣なまなざし。

葉っぱの形・色・匂い、特徴、木の肌のぬくもり、真剣に確かめる姿。全部回答すれば、子供植物博士の認定証がもらえる。森の中に溶け込んで、それは知識欲・探究欲だけでない親と子どもの心のふれあい・目と目を合わす肌の触れ合いの姿。最初は、森の中でオズオズと、森に慣れるに従って、その姿に森が微笑んでくる。

少しずつ森と親子がなじんで、子供たちが大胆に走り始める。お母さんが心配して大声で“走らないで！”と呼びかける。子供たちはもう親の心配をよそに、若鹿の様なその軽々とした身のこなしで躍動する。「この木、何の木！：名当てコンテスト」に充実した時間が森に流れる。

「あぁーー，腹ヘッター　」と子どもの声が聞こえたぞ。

お昼休みに、森の中から三々五々、基地に戻ってきた親子チームを待っていたのは、「あぁ～、いい匂い！」。お昼に美味しい物を食べさせたいと知恵を絞ったお母さんが作ってくれたのが「森の木のキノコタップリ汁」。大なべにフツフツとみそ味の“森のキノコ汁”。初めての「森の本物キノコ汁」。お味噌にトロリとキノコが溶けた調和のハーモニー。作ったお母さんの優しさと共に。皆んな、何杯もお替りしたよ。子供たちの美味しそう・嬉しそうに食べる姿にお母さんたちの幸せな微笑みが満ちる。

見て・触れて，嗅って、味見て、森の音を聞いて、心の底で感じて、、、全て、六感で教えてくれる優しい森。森は、生きる力を与えてくれる。そんな事を教えてくれる JFIK のみなさん、ありがとう。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告３]
全国学生環境活動コンテスト2011報告

12月27日

Forest Nova☆は昨年12月26、27日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「第９回全国大学生環境活動コンテスト（エココン）2011」に参加しました。

Forest Nova☆は今年で５回目の参加となります。エココンでは、毎年１年間の活動を振り返り、成果や反省点を５分間で発表しています。１日目はグループ選考、２日目は最終選考が行われました。毎年全国から多くの団体が参加し、今年は約５０団体が参加しました。そしてエココンは、様々な環境活動を行っている他大学の学生との交流や意見交換を通して、お互いの活動が更により良いものとなるように成長できる貴重な場でもあります。
今年のForest Nova☆の発表は、寸劇も取り入れ、多くの人に活動を共感してもらえるような内容にしました。

グループ選考は５団体で行われました。Forest Nova☆はエココンに向けて、事前に多くのミーティングを行い、みんなで「１年間の成果」や「活動の意味」を考えたことで、意見交換や質疑応答の時もみんな発言できていました。そして、そこでは多くの方の共感を得られたようで、見事翌日の最終選考に進むことができました。

最終選考では、グループ選考を勝ち抜いてきた８団体が大ホールで発表しました。グループ選考の時とは違う緊張感が漂う会場。しかしForest Nova☆は臆することなく見事な寸劇で一気に会場を盛り上げ、完璧な発表ができました。また、その後の討議の時間では４年生だけでなく１、２年生もしっかり発言することができました。事前に伝えたい事をみんなで共有し理解できていたから出来た事だと思います。そしてこれは大きな成長に繋がる事でしょう。いよいよ最終投票が終わり結果発表。結果は・・・なんと、Forest Nova☆は準グランプリ、そして会場賞を頂く事ができました！！

エココンを通して、私たちの活動の基盤となる森が好きだという気持ち、継続的森林整備の大切さを再度確認したと共に、１年間の成果を振り返り来年すべきこともみんなで共有できました。準備、当日含め個人、団体として多くの収穫があったエココン。私たちの活動が認められ、さらに準グランプリと会場賞を頂く事ができ、本当に嬉しかったです。

そして今年も緑のダムの皆様、相模湖地域の方々との関わりを大切にし、感謝の気持ちを忘れず活動を行っていきたいと思います。これからもよろしくお願いします

治田世以良・吉崎香代
（Forest Nova）

[報告4]
森をそばに感じてもらうイベント「もりそば」の活動報告

12月18日

2011年最後の嵐山定例活動が12月18日に行われました。

この日、Forest Nova☆はより多くの人に「森をもっとそばに感じて欲しい」という想いから、大学生を対象とし、嵐山にてイベントを実施しました。

このイベントでは森の現状を知った上で、自分たちにできることを考えてもらうということを目標としました。

私たちの考えとしては、現状を知ってもらうだけではなく具体的な行動として、自分たちで伐った木材を利用して森の現状を伝えていく新たな発信源になってもらいたいと考えています。

具体的な内容としては、午前にForest Nova☆の森にて間伐体験を、午後に木工体験を行いました。午前の間伐体験では、単に体験をするだけではなく、森を管理していくことの大切さと魅力も伝えていこうと考えました。Forest Nova☆の森の杉・檜は先代の方々が大切に育ててきたものであり、私たちの活動で言うと先輩たちが活動してきた軌跡そのものです。

100年の森を目指していくにはこの先40年以上の継続的な管理が必要になって来ます。

この先も次の世代につないでいくために継続的に森づくりを行なっていきたいと考えていますし、その一役を今まさに自分たちが担っているのです。という話を通して、森づくりの大切さと魅力を伝えていきました。午後は、伐った木の活用について考えてもらいました。

実際に木の箸やドアプレートの作成を行いました。活動後に実際に作品を使いながら森で学んだことを発信していってもらいたいと考えています。

活動後には、一日の学びの振り返りを行いながら、森をもっとそばに感じてもらうためにダジャレを込めて森で打った「もり蕎麦」をみんなで食し、冷えた身体を温めました。

参加者から間伐の大切さを感じることができた、改めて森の魅了を実感したなどの声を聞くことができ、学びあり笑いありの充実した一日となりました。

これからも嵐山を基点として、森の魅了を感じてもらうため、ひとりでも多くの方を巻き込んでいきたいと思います。

2012年も勢力的に活動に取り組んで参りますので、Forest Nova☆をどうぞよろしくお願いします。

齊藤　駿一（Forest Nova）

[報告5]
嵐山定例活動に参加して

12月18日

活動は、森の神社へ参拝し山の神様に敬意を表し安全を祈願するところから始まりました。新年のご挨拶として毎年、前年の無事故と、今年の成果を願って活動始めのご挨拶をする今回は、新年の初祈願。短い間でしたが、自然と人の間の絆が培われるひとときを感じました。

午前中は、森の駅代表代行の日大の桜井尚武教授から森の生態について学びながら標高約405mの嵐山の頂上まで散策。眼下に相模湖を拝しました。杉やヒノキなどの人工林のほか、マサカキやアロマセラピー効果のあるクロモジなど様々な広葉樹が見られ、さすが国際認証の森は多様性豊かで癒し効果も抜群と思いました。

昼食は、「緑のダム北相模の森」の理事、石村黄仁様の奥様たちが、手作りの地元野菜たっぷり暖かいスープときな粉もちをふるまってくださりくつろぎのひとときでした。

午後は、間伐体験で樹齢３０数年の杉を伐採。光が森に入りました。間伐をすると、光を受けられるようになった周りの木は成長がよくなることを、年輪でも確かめられることを桜井教授に教えていただきました。年輪の幅がその年から広くなるのです。（幅が広い分、成長がよくなったということ）

高井戸中学校の学生さんたちは、ハシゴで杉の木に登り４メートルの高さから枝落としの作業を元気に行なっていました。

緑のダム北相模の森には、複数のボランティア団体の方が定期的に参加し活躍されていますが、一日の活動がスムーズに進行され、まとまり感があるのが素敵でした。作業開始前には各班からの作業予定内容の発表があり現場の状況を確認しあい、一日の終わりの終礼でも活動内容などを報告し合うことで、全体の活動を共有・把握できるようになっていました。

また行きたくなる魅力がたくさんある森でした。

若い方々による森林整備や調査、会員による地道なボランティア活動に接することが出来ました。終了後の交流会で、こうした活動の中で巣立った若者たちが、多く森林関係の職に就いていることを知りました。

自然の中での体験が、人間の優しさや思いやりを涵養していることを、社会が評価していることを知り、安堵した次第です。私どもも、市民を森へ繋ぎ、さらに、市民を森の川中・川下の森の駅発に結ぶことをしていますが、こうした北相模での活動を参考にしながら、森の駅発の活動をすすめることが出来たら、と思っています。

岡本 守生
（「森の駅」推進協議会）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

東京学芸大学のシンポジウムに参加します

若柳嵐山の森で活動する杉並区立高井戸中学校の活動を東京学芸大学主催の２つのシンポジウムで発表することになりました。

「総合的道徳教育プログラム」 第３回全学フォーラム、2月16日木曜日、東京学芸大学です。N棟3階301教室にて14時からポスター発表、口頭発表を行います。（http://www.u-gakugei.ac.jp/~kokoro/）

環境学習シンポジウム「環境教育学」への新たな提案、2月18日土曜日、国立オリンピックセンターのポスターセッションで生徒が活動報告します。12時から415号室です。（http://www.ppmusee.org/event/pg96.html）こちらは要参加申込です。

杉並区教育研究会環境教育部会で講師を務めました

杉並区教育研究会環境教育部会において、高井戸中学校、隣接の三井の森公園をフィールドに、本会の内野理事が講師を務めました。写真でご紹介します。報告は来月号にて行います。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版